

● 分子標的薬を使用する分子標的療法

分子標的療法とは、「分子標的薬」を使用する治療法のことです。

分子標的薬は、がん細胞の増殖に関わるタンパク質や、栄養を運ぶ血管、がんを攻撃する免疫に関わるタンパク質などを標的にしてがんを攻撃する薬です。

2021年5月現在、当院で使用可能な、保険診療で受けることができる消化器がんに対する分子標的薬は以下の通りです。

	分子標的薬 一般名（商品名）
胃がん	トラスツズマブ（ハーセプチン）、ラムシルマブ（サイラムザ）
大腸がん	ベバシズマブ（アバステン）、アフリベルセプト（ザルトラップ）、ラムシルマブ（サイラムザ）、パニツムマブ（ベクティビックス）、セツキシマブ（アービタックス）、レゴラフェニブ（ステバーガ）、エンコラフェニブ（ビラフトビ）、ビニメチニブ（メクトビ）
膵臓がん	エルロチニブ（タルセバ）
肝細胞がん	ソラフェニブ（ネクサバル）、レンバチニブ（レンビマ）、レゴラフェニブ（ステバーガ）、ラムシルマブ（サイラムザ）
GIST （消化管間質腫瘍）	イマチニブ（グリベック）、スニチニブ（スーテント）、レゴラフェニブ（ステバーガ）
神経内分泌腫瘍	スニチニブ（スーテント）、エベロリムス（アフィニートル）